

平成 30 年度 記者懇談会（第 8 回）の記録

日 時 平成 30 年 11 月 28 日（水）午後 4 時 00 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 9 人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、企画財政部長
次 第 1 北海道日本ハムファイターズ
北海道 179 市町村応援大使 2019 について（企画財政部）
2 その他



1 北海道日本ハムファイターズ 北海道 179 市町村応援大使 2019 について

説明内容

(市長)

北海道日本ハムファイターズが、北海道移転 10 年目を記念し、選手自らが道内市町村の「応援大使」を務め、観光PRなどを行う企画として、2013 年シーズンからスタートした「北海道 179 市町村応援大使」の 2019 年大使に岩見沢市が当選しまして、応援大使となる選手が決定したところです。

1 年に 18 市町村で応援大使が活動するというところで、岩見沢市は当初から応募しておりましたが、7 年目となる今回、選定いただき、24 日（土）に札幌ドームで開催された「ファンフェスティバル 2018」の中で行われた抽選会の結果、『井口 和朋』選手、『石井 一成』選手、そして『ニック・マルティネス』選手の 3 選手が岩見沢市の応援大使に就任いただくことになりました。

応援大使を務めていただく 3 選手のプロフィールをご紹介します。

井口選手は、背番号 29、平成 6 年 1 月 7 日生まれの 24 歳、175 cm、82 kg、右投げ右打ちのピッチャーで、神奈川県出身、網走市の東京農業大北海道オホーツクキャンパスから日本ハムに入団した選手です。

石井選手は、背番号 38、平成 6 年 5 月 6 日生まれの 24 歳、180 cm、77 kg、右投げ左打ちの内野手で、出身は栃木県です。

マルティネス選手は、背番号 27、平成 2 年 8 月 5 日生まれの 28 歳、185 cm、90 kg、右投げ左打ちのピッチャーで、アメリカ出身、メジャーリーグのテキサスレンジャーズから日本ハムに入団した選手です。

3 選手の活動内容については、今後、球団と相談して決定しますが、市役所各部局からの提案、さらには市内の後援会（岩見沢後援会、栗沢後援会）とも相談して、球団に提案したいと考えています。

質疑応答

なし

2 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(HBC 北海道放送)

9 月の記者懇談会で、岩見沢サービスエリア スマートインター構想のお話がありました。これについて、現在の進捗状況や NEXCO 東日本との協議がどのような感じか教えてください。

(市長)

前回から大きく状況は変わっていません。

市の関係部で協議をしているところです。

採算性についての基本的な調査は、NEXCO 東日本とも協議しながら進めており、現段階で、採算が取れるのではないかという見込みを立てています。

今年9月に群馬県甘楽郡甘楽町を視察し、聴き取り調査を行いました。

(HBC 北海道放送)

競馬場跡地はどのように活用したいのか改めて教えてください。

(市長)

市議会でもお答えしておりますが、競馬場跡地の活用はゼロベースから見直します。東17丁目通が平成32年に開通予定ですので、その後の交通量などを調査し、スマートインターの開設を含め、土地利用について協議していかねなければならないと考えています。

(HBC 北海道放送)

土地利用は、人が集うようなものですか。

(市長)

最初の段階では交流機能が主だったのですが、利便性が良くなりますので業務系も含めて広く構想についての調査をしてみたいと考えています。

(HBC 北海道放送)

市長として、期待することは何ですか。

(市長)

アクセスが飛躍的に高まるということ。そのことにより、観光においてプラスになるでしょうし、業務系、企業誘致、あるいは地方創生を念頭に置きながらの構想づくりになってくるかと思えます。このような意味で期待しています。

(HBC 北海道放送)

宝水ワイナリー方面へのアクセスも良くなるのではないかと思います。

(市長)

そうですね。宝水地域とのアクセスも良くなります。

ただし、道路の新設などは考えなければなりません。

(HBC 北海道放送)

スマートインターの開通は、いつ頃になりますか。

(市長)

まだ、準備段階の調査段階にも至っていません。

東17丁目通が開通して、その後の交通量調査などを並行して進めながら、次のステップに向かっていきますから、まだ、開通時期を見通せる段階ではないと思っています。

(毎日新聞)

砂川市に設置されたスマートインターの場合、北海道子どもの国（道立都市公園）周辺で地元の新鮮な野菜を売るなどして集客効果もあるようですが、そのようなこともこれから検討されるということでしょうか。

(市長)

サービスエリア接続型を想定していますので、物産機能も想定されるのではないかと考えています。採算性が一番の課題ですが。

(北海道新聞)

岩見沢サービスエリアとスマートインターが接続する場合、採算が取れるラインはどのくらいの台数になりますか。

(市長)

具体的に詳細を聞いていませんが、報告では、上下線の交通量から将来の交通量を見込み、スマートインターが設置された後、どの程度の利用が見込まれるかということ推計していくと聞いています。

NEXCO 東日本が求める採算性は、ある程度クリアできる可能性があるのではないかと思います。

(北海道新聞)

JR 室蘭線の路線維持問題について。

今月動き出したばかりの JR 室蘭線活性化連絡協議会の立ち上げ以降、協議会、あるいは岩見沢市としてどのような動きをしてきたのでしょうか。また、今後の見通しを教えてください。

(市長)

JR 北海道から具体的なアクションプランのご提示はありませんが、JR 北海道との利用促進策に関する事務レベルでの協議を行っている段階です。

まだ、それが固まっている段階には至っていません。

(北海道新聞)

それぞれの首長が集まる会議はまだ先になりますか。

(市長)

それは、状況や必要に応じて考えたいと思います。

年末や年度末に向けて 5 自治体の首長が集まるのは忙しくてなかなか厳しいものがありますが、必要なときには書面会議もできるとしてありますので、書面会議も活用しながら、事務レベルの協議と併せて共通認識を図っていきたいと思います。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)